

コミュニケーション学部 2024 年度自己点検・評価シート (公開用)

基準 1

項目
●大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。 ○大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける大学の目的及び学部・研究科における教育研究上の目的を明らかにしているか。 ○理念・目的を教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表しているか。
① 2024 年度以降の達成目標（＊）② 達成度を測るための客観的な指標
[①2024 年度以降の達成目標] 大学の理念・目的をふまえた学部の目的を適切に設定するよう持続的に努める。 人材育成その他の教育研究上の目的の周知に持続的に努める。 [②達成度を測るための客観的な指標] 年度ごとの、当該検討会議（教授会・FD委員会等）の開催実現率 年度ごとの、周知の取り組み（教授会・FD委員会等）の開催実現率
① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題）
[①2024 年度の取り組みとその成果] 第 13 回学部教授会（2025 年 2 月 19 日）において現行の全学の「理念・目的」および学部の「教育研究理念」「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」について、資料を配布し、学部構成員への周知を図るとともに確認した。制定されている規定はウェブを通じて継続的に公表されており、さらに今年度も学生に対しては履修要項、また保護者に対してはガイドブックの配布により周知に努めている。 [②2024 年度の取り組み後の問題点（課題）] 適切性については特段の意見はなかったものの、今後も、引き続き意見聴取および検討の継続に努める。学部教授会構成員以外への周知には不十分な面も残っており明示・周知・公表に引き続き持続的に努める。

基準 4

項目
●達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。 ○学位授与方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成・実施方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしているか。 ○上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。
① 2024 年度以降の達成目標（＊）② 達成度を測るための客観的な指標
[①2024 年度以降の達成目標] DP の適切な設定が行えているかについての継続的な検討を行う。

[②達成度を測るための客観的な指標] 年度ごとの、当該検討会議（教授会・FD会議等）の開催実現率
① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題）
[①2024 年度の取り組みとその成果] 定められたディプロマ・ポリシーは履修要項に掲載されているとともに、ウェブを通じて継続的に公表されている。また第 13 回学部教授会（2025 年 2 月 19 日）において、全学および学部・学科のディプロマ・ポリシーについて確認した。定められたカリキュラム・ポリシーは履修要項に掲載されているとともに、ウェブを通じて継続的に公表されている。また第 13 回学部教授会（2025 年 2 月 19 日）において、全学および学部・学科のカリキュラム・ポリシーについて確認した。 [②2024 年度の取り組み後の問題点（課題）] 適切性については特段の意見はなかったものの、今後も引き続き意見聴取および検討の継続に努める。

項目
●学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。 ○学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
① 2024 年度以降の達成目標（*）② 達成度を測るための客観的な指標
[①2024 年度以降の達成目標] 1. 2022 年度からの新カリキュラムと 21 年度までの旧カリキュラムの両立 2. 2026 年度以降のカリキュラムの検討と決定 [②達成度を測るための客観的な指標] 1. 2021 年度までのカリキュラムを保つ授業編成 2. 2022 年度以降のカリキュラムに合わせた授業編成 3. 2026 年度以降のカリキュラム
① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題）
[①2024 年度の取り組みとその成果] ・ 2025 年度の特別授業計画およびシラバス作成 ・ 2025 年度コミュニケーション学部授業計画における 22 年度カリキュラムおよび 21 年度以前の旧カリキュラムの両立 ・ 「グローバルインターンシップ（オーストラリア・フィリピン）」「海外短期研修（米国・フィリピン）」「中長期留学（フィリピン）」の実施 ・ コミュニケーション学部 26 年度新カリキュラムの決定 [②2024 年度の取り組み後の問題点（課題）]

26 年度授業計画は 22 年度カリキュラムと 26 年度新カリキュラムを併存させるよう、計画する必要がある。

項目
●成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。 ○成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。 ○成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。 ○既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。 ○学位授与における実施手続及び体制が明確であるか。 ○学位授与方針に則して、適切に学位を授与しているか。
① 2024 年度以降の達成目標（*）② 達成度を測るための客観的な指標
[①2024 年度以降の達成目標] 1. 成績評価及び単位認定を適切に行うための措置の実施・遂行 2. 学位授与を適切に行うための措置の実・遂行 [②達成度を測るための客観的な指標] 1. 「成績評価及び単位認定を適切に行うための措置」の実施・遂行の有無 2. 「学位授与を適切に行うための措置」の実施・遂行の有無
① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題）
[①2024 年度の取り組みとその成果] ・ 単位制度の趣旨に基づく単位認定の実施 ・ 編入学者の単位認定の実施 ・ シラバスにおける成績評価方法の明記 ・ 成績問い合わせ制度の実施 ・ 卒業・修了要件の明示 ・ 「社会調査入門」「フレッシュャーズ・セミナー a」「フレッシュャーズ・セミナー b」「コミュニケーションワークショップ」における「成績評価基準に関する教員間の申し合わせ」の実施 [②2024 年度の取り組み後の問題点（課題）] 2025 年度以降もそれぞれ継続的に実施していく必要がある。

項目
●学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。 ○学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。 ○学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適

切なものか。 ○指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用を図っているか。
① 2024 年度以降の達成目標（＊） ② 達成度を測るための客観的な指標
[①2024 年度以降の達成目標] アセスメント・ポリシーに掲げた各項目の評価測定の実施 [②達成度を測るための客観的な指標] 1) 各学生の単位修得状況に基づく DP の客観的達成状況の測定 2) 1)のもととなる DP・CP に対応させた各授業の履修登録者数の確認 3) 学習成果の把握・評価のための卒業生への意見聴取累積実施件数 4) 在学生に対する DP 達成に関する自己評価の把握 5) その他アセスメント・ポリシーに掲げた項目の実施状況
① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題）
[①2024 年度の取り組みとその成果] ・2024 年度入学生について、「入試結果」と「入学前教育取り組み状況」を学部レベル／学科レベルで把握した。また、「入学前教育取り組み状況」については、AO 選抜合格者に対しては、学部独自の入学前教育も実施した。 ・2023 年度の GPA と修得単位情報にもとづいて、成績不振者への学習相談、ならびに学業成績優秀者表彰を実施した。 ・2024 年度在学生について、「演習履修率」を把握した。 ・2024 年度 1 年生の「キャリアと学びのプランシート」提出率は、学部全体で 94.5%（メディア社会学科 96.0%、国際コミュニケーション学科 92.1%）であった。 ・「学部 DP 達成度評価」については、2020 年度および 2021 年度入学生を対象とした単位習得状況に基づく DP の客観的達成状況を学部レベル／学科レベルで測定した。その際、DP・CP に対応させた各授業の履修登録者数も確認した。その結果を 2025 年 2 月 28 日の学部 FD 会議で報告して、学部教育の見直しのための議論を行った。 ・2024 年度在学生に対して、「学生による授業アンケート」を科目レベルで実施した。 ・2024 年度卒業生について「学位授与率」を把握した。また、「卒業時アンケート調査」を通じて在学生に対する DP 達成に関する自己評価を把握した。「卒業研究評価」については、2024 年度卒業生では優秀卒業制作・卒業論文賞に 18 名が選出され、その中から最優秀賞が 1 名決定した。「卒業後アンケート調査」については、2020 年度卒業生を対象として実施した。これらは、1 学科体制の卒業生を対象としたものであるため、学部レベルで把握した。 [②2024 年度の取り組み後の問題点（課題）] 2024 年度の取り組みを 2025 年度以降も継続実施および適用範囲の拡大を進めていく必要がある。卒業生アンケートは、回収数確保の点なども含め有効性に関して今後も検討す

る必要がある。また、2 学科体制になった 2022 年度以降の入学生に対応できるよう、今後は卒業時アンケート調査や卒業後アンケート調査の項目を見直す必要がある。

項目
●教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。 ○教育課程及びその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしているか。 ○課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。 ○外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。 ○自己点検・評価の結果を活用し、教育課程及びその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。
①2024 年度以降の達成目標（*）② 達成度を測るための客観的な指標
[①2024 年度以降の達成目標] 「卒業時アンケート調査」、「学部 DP 達成度評価」、「学生による授業アンケート」、「新入生アンケート」を実施して、その結果を学部教授会や学部 FD 会議等で報告する。また、可能な範囲で、カリキュラム検討委員会の議論に活かす。 [②達成度を測るための客観的な指標] 上記の実施状況
① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題）
[①2024 年度の取り組みとその成果] ・「新入生アンケート」の実施 ・2020 年度および 2021 年度入学生を対象とした単位習得状況に基づく DP の客観的達成状況の測定と、結果のコミュニケーション学部教務委員会および学部教授会での報告および学部 FD 会議開催 ・2024 年度における DP・CP に対応させた各授業の履修登録者数の確認および学部 FD 会議開催 ・2024 年 8 月 6 日に異文化理解 A の履修者に対し海外研修プログラムについての意見聴取を行い、カリキュラム検討委員会の議論に活かされた。 [②2024 年度の取り組み後の問題点（課題）] 改善・向上に向けた取り組みの効果検証を進める必要がある。

基準 5

項目
●学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。 ○学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程）に設定しているか。 ○学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。 ○学生の受け入れ方針に沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施しているか。 ○入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備しているか。 ○すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。
① 2024 年度以降の達成目標（＊）② 達成度を測るための客観的な指標
[①2024 年度以降の達成目標] AP の設定や入試情報の公開の適切性について定期的かつ継続的に検討し、必要に応じて全学の該当部署（入試課や AO 選抜実施委員会）に要望を伝える。 [②達成度を測るための客観的な指標] 当該検討会議（教務委員会、教授会、FD 委員会など）の開催実現率及び議事録。
① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題）
[①2024 年度の取り組みとその成果] 学部教授会において、入学希望者に求める水準の判定方法や求める学生像についての検討を行った。第 6 回（2024 年 10 月 23 日）教授会では、2025 年度 AO 選抜（総合型、英語資格利用型第 1 期）およびキャリアデザインプログラム AO 選抜、スポーツ特別選抜、スポーツ実績者選抜の実施報告と審議がなされた。第 8 回(2024 年 11 月 27 日)教授会では、本年度第 1 年次指定校推薦選抜、第 1 年次全商協会特別推薦選抜、第 1 年次資格取得者選抜および第 1 年次指定日本語学校外国人留学生推薦選抜の実施報告と審議がなされた。第 9 回(2024 年 12 月 11 日)教授会では、本年度 AO 選抜（英語資格利用型第 2 期）の実施報告と審議がなされた。第 10 回(2025 年 1 月 8 日)教授会において、本年度第 1 年次外国人留学生選抜の実施報告と審議がなされた。 [②2024 年度の取り組み後の問題点（課題）] 学部の将来構想と合わせて、学生の受け入れ方針やその公開方法、アドミッション・ポリシーの適切性について引き続き検討していく。

基準 6

項目
●教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。 ○大学として求める教員像や教員組織の編制方針に基づき、教員組織を編制しているか。 ○クロスアポイントメントなどによって、他大学又は企業等の人材を教員として任用する場合は、教員の業務範囲を明確に定め、また、業務状況を適切に把握しているか。 ○教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。 ○授業において指導補助者に補助又は授業の一部を担当させる場合、あらかじめ責任関係や役割を規程等に定め、明確な指導計画のもとで適任者にそれを行わせているか。
① 2024 年度以降の達成目標（*） ② 達成度を測るための客観的な指標
[①2024 年度以降の達成目標] 2022 年度からの二学科体制への移行に伴い、先行して専任教員の採用を実施したことから、現時点では 2025 年度まで新規採用の予定がない。ゆえに、全学的な検討を求める。 [②達成度を測るための指標] 上述から、2024 年度については数字に基づいた目標の設定は困難である。したがって、現状の教員組織が適切なかたちで維持されているか否かを達成度の判断の基準としたい。
① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題）
[①2024 年度の取り組みとその成果] 2024 年度は、専任教員の人事は実施されていない。ただし、任期つき教員のうち、客員教授 1 名、特命講師 1 名の採用、および特任講師 2 名、特命講師 2 名の再任を行った。採用や再任に当たっては、「コミュニケーション学部教員組織の編制方針」に十分な配慮のうえ進めた。 [②2024 年度の取り組み後の問題点（課題）] 二学科体制への移行に伴い学部全体の定員が増加しているうえ、キャリアデザインプログラムから 2 年次以降にコミュニケーション学部へ所属する学生が恒常的に予定数を超えている。しかし、前述の通り専任教員数は本来の水準を下回る状態が続いており、学部の教育の質を維持するために必要な専任教員数を確保できていない状況にある。実際、演習の履修率は低下傾向にあり、例えば 2 年次の演習履修率は 2020 年度の 100%から 2024 年度には 94.1%にまで減少している。定員を超えて演習履修者を受け入れている教員も増加しており、学部の特色であるゼミ教育の質を担保することが難しい状況にある。さらに、2024 年度末には専任教員 1 名が定年退職し、2025 年度には 1 名が国外研究員となる。この結果、2025 年度に授業を担当できる専任教員は 21 名となる。国外研究員は学部

として 8 年ぶりであり、国内研究員の取得者も他組織に比べて少ない。この点も人員の逼迫を示しており、研究成果を教育に還元するサイクルが、以前ほど十分に機能していない。このような状況を踏まえ、専任教員の増員が不可欠である。特に、演習をはじめとする少人数教育のさらなる充実や、海外研修プログラムを含む二学科体制の円滑な運営の観点からも、学部専任教員の増員について引き続き全学的な検討を求める。

項目
●教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。 ○教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。 ○年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。
① 2024 年度以降の達成目標（＊）② 達成度を測るための客観的な指標
[①2024 年度以降の達成目標] 教員の募集、採用については各年度全学的な判断に基づいて各学部の採用枠が決定されるため、客観的な指標、とりわけ数値目標を学部の判断で設定することは困難である。したがって、2024 年度は学科新設に伴い一時的に専任教員数が 23 名となっているが、今後定年に伴い自然減することから、完成年度である 2025 年度以降の教員数を見据えながら、募集、採用等について検討していく必要がある。昇任については、引き続き「コミュニケーション学部教員組織の編制方針」に基づいて透明性の高い人事を行う。男女構成比の偏りについては、非常に長期的な対応が必要であるため、学部において継続的な検討を行うにとどめ、現状適切な編制とされる教員組織の維持に努めたい。 [②達成度を測るための指標] 各年度ごとに起案される人事の達成率は一定の指針として採用する必要があるが、教員の採用については、あくまで研究能力、教育力を含めた総合的な判断を行う必要がある。ただし、2024 年度期首時点では、本年度は採用の予定がない。昇任については、「コミュニケーション学部教員組織の編制方針」に基づいた透明性の高い人事が行われたか否かで判断する。
① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題）
[①2024 年度の取り組みとその成果] 2024 年度は、左記の通り専任教員の人事は実施されていない。また、昇任については受付期間に申請がなかったものの、コミュニケーション学部教授会において昇任申請の受付について繰り返し周知をしており、公平性、透明性の高い手続きがとられた。 [②2024 年度の取り組み後の問題点] 2025 年度以降も、2 学科体制の円滑な運営を見据えながら、教員の募集、採用、昇任等のプロセスが引き続き高い透明性のもとで運用がなされていくのかを絶えず検証してい

くことが継続した課題となる。また、教員の男女構成比についても、2025 年度までは専任教員の人事が行われないため、中長期的な観点から検討を続けたい。

項目
●教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。 ○教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 ○教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 ○大学としての考えに応じて教員の業績を評価する仕組みを導入し、教育活動、研究活動等の活性化を図ることに寄与しているか。 ○教員以外が指導補助者となって教育に関わる場合、必要な研修を行い、授業の運営等が適切になされるよう図っているか。
① 2024 年度以降の達成目標（＊）② 達成度を測るための客観的な指標 〔①2024 年度以降の達成目標〕 学部 FD 会議を年数回開催する。「優秀卒業制作・優秀卒業論文発表会」は、例年の平均に近い 55%前後の参加率を目指したい。教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化については、それらの諸活動の成果を学部公式ブログ「TOKECOM note」に年数本の記事を掲載する。 〔②達成度を測るための指標〕 上述の通り。
② 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題） 〔①2024 年度の取り組みとその成果〕 本年度は全学の FD 活動に加えて、学部 FD 会議を 3 回開催して、それぞれ発表者からの話題提供をもとに活発な議論がなされた。7 月 10 日には、北村智教授から「学習成果の把握と教育課程へのフィードバック」をテーマに、2 学科体制 1 期生の 2 年終了時までの学習成果について報告があった。2 月 28 日には、北村智教授から本学部の DP の達成状況に基づく学生の学習成果について報告がなされた。3 月 11 日には、堀口剛特命講師、高見由満子特命講師から特命業務を通じた学生の指導・支援について報告があった。また、優秀卒業制作・卒業論文発表会では、2024 年度に卒業制作・卒業論文指導が行われた 23 ゼミのうち 16 ゼミ（69.6%）が参加した。発表できなかった優秀賞受賞者 2 名を含めると 78.3%となる。また、教員の活動を共有する「TOKECOM note」では、教育に関わる記事が 4 件、研究に関わるものが 1 件、社会活動に関わるものが 1 件ポストされた（2025 年 2 月 13 日現在、計 6 件）。 〔②2024 年度の取り組み後の問題点〕

まず、「優秀卒業制作・論文発表会」については、例年よりも高い参加率であったことから、2025 年度以降もこの状態を維持できるように努力していきたい。「TOKECOM note」については、教育、研究、社会活動に関わるポストが計 6 件である。充実した内容であり社会への発信という観点からも一定の評価が与えられるものの、掲載件数がさらに増えるように努力をしていきたい。

項目

- 教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。
- 教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。
- 点検・評価の結果を活用して、教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。

① 2024 年度以降の達成目標（＊）② 達成度を測るための客観的な指標

[①2024 年度以降の達成目標]

教員の採用は、毎年度全学的な計画に基づいて実施されるため、教員組織の適切性についての評価は、その案が学部レベルでの検討対象になるに至って初めて可能となる。したがって、2025 年度人事計画策定の段階で、現状の学部の教員組織の点検、評価を行い、適切な人事案を確定する。このサイクルを毎年度実施することで、定期的な点検、評価を定着させたい。

[②達成度を測る指標]

教員組織の適切性について検討したことを示す文書等の有無に基づく。

① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題）

[①2024 年度の取り組みとその成果]

2025 年 2 月 19 日のコミュニケーション学部教授会において、2024 年度の人事について総括が行われた。あわせて全学で認められた 2025 年度の採用計画に基づいて、同年度の本学部の人事の進めかたについての紹介が佐々木学部長からあり、承認された。また、その際に学部の教員編制方針が共有された。

[②2024 年度の取り組み後の問題点]

学部教員組織の編制方針が定められたことで、上述のように年に一度教員組織の適切性について点検、評価を実施することが可能になった。今後の課題としては、毎年度適切にこの編成方針のもとで運用が行われるかという点となる。

基準 7

項目
●学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。 〔修学支援（学習面）〕 ○学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。 ○障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。 ○学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応しているか。 ○遠隔授業をはじめ教育等で I C T を活用する場合は、I C T 機器の準備や通信環境確保等において学生間に格差が生じないよう、必要に応じて対応しているか（機器貸与、通信環境確保のための支援等）。 ○I C T を利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っているか。
① 2024 年度以降の達成目標（＊） ② 達成度を測るための客観的な指標
〔①2024 年度以降の達成目標〕 ○成績不振の学生の状況把握と指導 ・英語コミュニケーション（1 年次必修科目）出席状況の定期的な把握、フレッシュャーズ・セミナー（1 年次）および演習・卒業研究（2～4 年次）における個々の指導教員による学修状況の把握により、成績不審になる可能性のある学生への早期対応を通じた、学習相談呼び出し対象者数の減少。 ・学習相談呼び出し対象者の参加率向上。 〔②達成度を測る指標〕 ○成績不振の学生の状況把握と指導 ・学習相談呼び出し対象者数および学習相談参加率の推移
① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点（課題）
〔①2024 年度の取り組みとその成果〕 ○障がいのある学生に対する修学支援 ・特別な就学支援を必要とするコミュニケーション学部生については、第 1 回学部教授会で必要な情報を共有した。 ○成績不振学生の状況把握と指導 ・英語コミュニケーション（1 年次必修科目）については、英語教育運営委員会において学修状況と出席状況を月毎に確認し、早期に成績不振者の把握と対応を行った。フレッシュ

ャーズ・セミナー（1年次1期）および演習・卒業研究（2～4年次）における個々の指導教員による学習状況の把握により、成績不振になる可能性のある学生への早期対応を行った。

・4月2日・3日実施分の学習相談呼出し対象者（75名）の在学生（1019名）に対する比率は、前年度より0.1%減少し、9月12日実施分については呼出し対象者（124名）の在学生（1019名）に対する比率が0.6%減少した。9月実施分については、学生総数が20名以上増えているにもかかわらず対象者が6名減少するなど、多少ではあるが学習相談対象者を減らすことができた。

〔②2024年度取り組み後の問題点（課題）〕

○成績不振学生の状況把握と指導

・学習相談呼び出し対象者数の減少および対象者参加率の改善をさらに進める。

項目
●学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。 ○学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。 ○点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。
① 2024年度以降の達成目標（*）② 達成度を測るための客観的な指標
〔①2024年度以降の達成目標〕 ・学習相談の呼び出し基準・実施方法、学生支援の適切性について、学部教務委員会で点検し、必要に応じて評価・改善を行う。 〔②達成度を測る指標〕 学習相談への参加者数、呼び出しを受けた成績不審者の参加率の確認。
① 2024年度の取り組みとその成果 ② 2024年度取り組み後の問題点（課題）
〔①2024年度の取り組みとその成果〕 学習相談の呼び出し基準・実施方法、学生支援の適切性については、第1回学部教務委員会（2024年4月17日）で点検、評価・改善を行った。学習相談への参加者数、呼び出しを受けた成績不審者の参加率の確認は、第1回学部教務委員会（2024年4月17日）、第5回学部教務委員会（2024年9月25日）、第1回学部教授会（4月17日）、第5回学部教授会（2024年9月25日）にて学部教務委員長より詳細な説明を行った。 〔②2024年度取り組み後の問題点（課題）〕 学習相談への参加を求められた成績不審者の参加率は、学年次による差がみられ、4月時は1年生と4年生、9月時は2年次生の参加率が昨年よりも上がっていた。対象者の現象と併せて、参加率の向上に向けて改善に務める。

基準 1 1

項目
●第2 次中期計画 ○分野別中期計画で掲げられている 1 . 教学- (1) 教育 に対する取り組みが適切に行われているか。
① 2024 年度以降の達成目標 (＊) ② 達成度を測るための客観的な指標
[①2024 年度以降の達成目標] 1) コミュニケーション学部 2 学科体制の運営 2) データサイエンス教育の導入 3) ゼミを主軸とする少人数教育の充実 [②達成度を測るための客観的な指標] 1)-1 2025 年度コミュニケーション学部入学者数 1)-2 2025 年度コミュニケーション学部授業計画 2) データサイエンス・スタンダード登録者の単位修得状況 3)-1 2025 年度演習・卒業研究の履修許可者数 3)-2 2025 年度ワークショップ授業開講数
① 2024 年度の取り組みとその成果 ② 2024 年度の取り組み後の問題点 (課題)
[①2024 年度の取り組みとその成果] ・ コミュニケーション学部 2024 年度授業計画の実施 ・ コミュニケーション学部 2025 年度授業計画 ・ 海外研修運営委員会の開催 ・ 社会調査協会「社会調査士」教育課程の運営 ・ データサイエンス・スタンダード認定科目の開講 ・ ワークショップ・演習を中心とした少人数教育の実施 ・ アセスメント・ポリシーに基づく学修成果の把握とそれにもとづく学部 FD の開催 ・ PR プロフェッショナルプログラムの運営 ・ コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科海外研修プログラム「中長期留学」の国際交流委員会への移管 [②2024 年度の取り組み後の問題点 (課題)] コミュニケーション学部 2 学科体制、特に国際コミュニケーション学科カリキュラムの実施を確実に完成させる必要がある。